



みそのだより

令和8年1月30日
学校だより 2月号
板橋区立三園小学校
みどりの学びのエリア

合い言葉『生き生き 学びの三園小』

「かかわり」を通して自主性や共生の心を育む

校長 和田 幹夫

早いもので、来週からは2月になります。おかげ様で、本校ではインフルエンザ等の流行もなく、子どもたちも休み時間、なわ跳びに取り組むなど、寒さに負けず元気に過ごしています。まだまだ、厳しい冷え込みが続きますが、2月3日は節分、そして翌2月4日は立春を迎えます。寒さの中にも、日だまりに出ると体も心も温かくなります。また、一日一日と日も延びるなど、春が着実に近づいているのを感じます。希望の春に向かって確かな一歩を踏み出せるように、健康管理に気を付け、学習や生活を充実させていきたいと思います。

さて、1月の土曜授業公開では「いたばし学級活動の日」として、全学級で学級活動における話し合い活動（いわゆる学級会）を公開しました。学級活動では、学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだして話し合い、合意形成を図りながら、協力して実践していきます。

今回は1月後半という時期を踏まえ、「節分集会」や「こども祭り」など学級集会の計画や、自分たちの学校生活における課題の改善策について話し合うなど、全学級それぞれに議題を決めて取り組みました。特に6年生は、しめくくりの取組や卒業アルバムづくりなど、小学校卒業を意識した議題を取り上げていました。大勢の参観者の中、緊張する様子も見られましたが、どのクラスでも、子どもたちが中心になって話し合いを進め、すすんで発言をしながら、よりよい考えを創っていく姿が見られました。

その中で、大切にしていきたいのは、何のためにその議題について話し合うのか、しっかりと目的意識をもつこと、そして、異なる意見も含めて一人一人の意見を大切にしながら、みんなが納得できるように合意形成を図っていくことです。そして、話し合って決めたことをみんなが協力しながら実践し、振り返りまで行っていきます。

このような経験の積み重ねが、自己有用感や自主性、所属感や社会の一員としての自覚を育むとともに、多様な他者と協働して、みんなにとってよりよい社会の形成に参画していこうとする意識の基礎につながっていくと考えます。今後も、さらなる学級活動の充実に取り組んでいきたいと思います。

2月は、今年度3回目の「ふれあい月間」です。人の心の中には「いじわるな心」「乱暴な心」「すぐにあきらめてしまう心」などの弱い心（鬼）があります。それとともに、人の心の中には「相手を思いやる心」「自分やまわりの人を大切にすること」「いじめをしない・許さない強い心」「前向きな心」などのよい心も必ずあります。それを大きく育て、弱い心を追い払い、みんなが笑顔で過ごせるクラス・学校をつくっていききたいと思います。そのために、大切なことは「かかわり」です。「かかわり」があつてこそ、自他のよさやがんばり、考え方や感じ方の違いに気づき、力を合わせて取り組むことの大切さやすばらしさを実感することができると思います。先に述べました学級活動も「かかわり」を大切に活動です。

「かかわり」を大切に活動を通して、いじめ防止の取組もより一層推進していきます。

「いじめ」は、人の心や体を傷つけ、いつでも、どこでも、誰に対しても絶対に行ってはいけないことです。一人一人の心に寄り添う「優しさ」と、いじめを許さない「強い心」をもって、教職員一丸となり、子供たち、そして保護者・地域の皆様と共に、いじめ防止に全力で取り組んでいきます。何か気になることがございましたら、遠慮なく学校までご連絡ください。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。